

CR継手（更新君）の

立て管更新の作業性

「KJ・US工法」、「US・両受けユニット工法」

新築時には「KJ・US工法」、既存更新時には「US・両受けユニット工法」によって、台所系統等の流れ難くなった立て管の更新が容易に行えます。

今回は、専用部の□300mm パイプシャフトを試験室に仮設し、立て管更新の作業性を検証しましたので報告します。

把持具

狭いPS内で排水立て管を持ち上げたり、引き下ろしたり、回したり、揺すったりする場合に使用する管把持具です。素手に比べ管をしっかりと掴めます。なお、立て管の切断作業も容易に行うことができます。



写真1

新築時には、専用部の□300mm パイプシャフトも通常の1本の直管で配管します。



動画1

管把持具を利用すれば、容易に切断できます。



写真2

管把持具を使用すると、容易に切断できます。

動画をご覧になる際、データのダウンロードが完全でないと、止まって見えることがありますので、ダウンロードが完了するまでお待ち下さい。



写真3

切断した上側の立て管は、揺すって引き抜きます。



写真4

切断した下側の立て管は、揺すって引き抜きます。



写真5

更新時の立て管は分割して搬入し、現場で組立えます。
■立て管長計算図をご参照下さい。

＜更新君の定義＞

- ①上部受け口がOリングパッキン仕様で呑込代50mm。
- ②下部差し口に規制リップKを有する仕様でやり取り代70mm、差し代60mm。



KJ・US工法には、必ず本規制治具KJをご使用の上、支持具の各ベース底面がスラブ上面にしっかり密着していることをご確認の上、取り外して下さい。

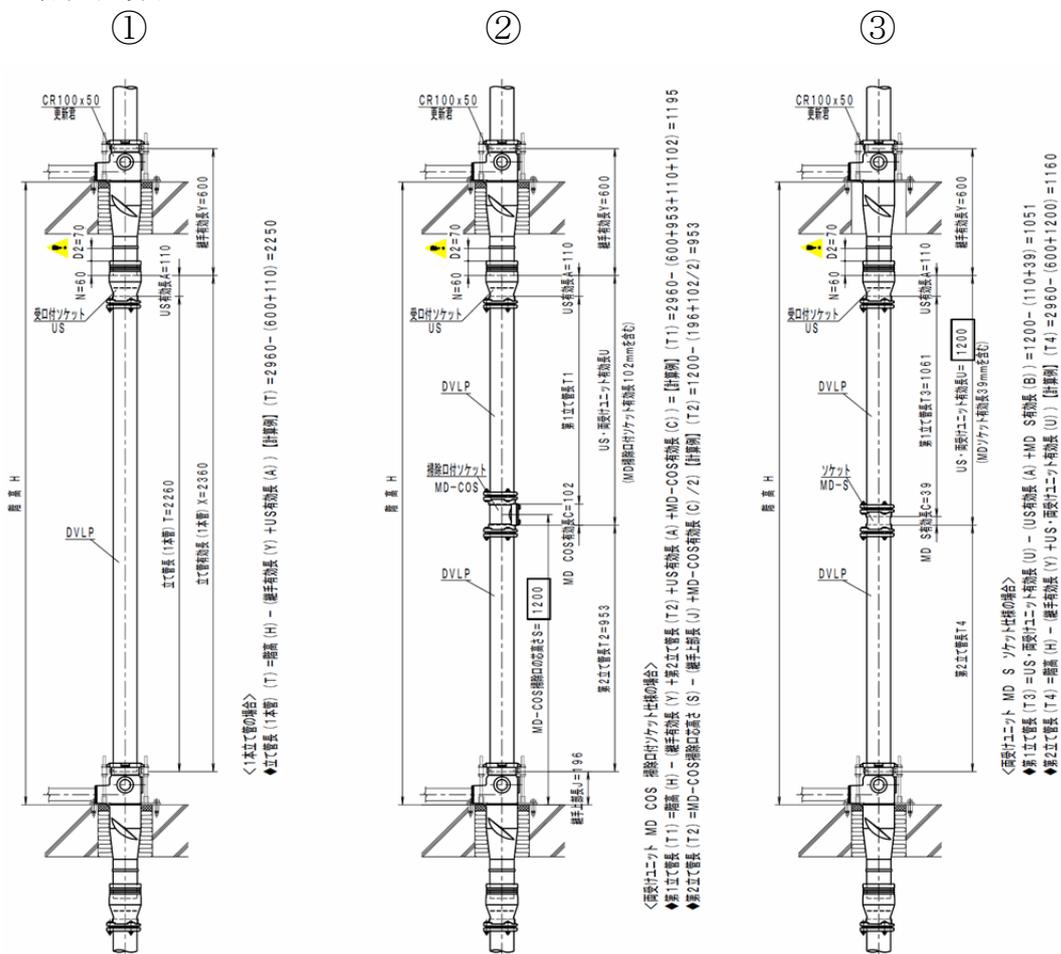
●CR継手（更新君）のKJ・US工法とは

規制治具KJと受口ソケットUSを用いて、CR継手（更新君）の差し口に設けた規制リップKの下側に、やり取り代70mm（および差し代60mm）を確保する工法です。

●CR継手（更新君）のUS・両受けユニット工法とは

専用部の狭いPS内には、更新用のUS・両受けユニットUと第2立て管T2との二体で持ち込んで、CR継手（更新君）の差し口に設けた規制リップKの下側に、やり取り接続します。

■立て管長計算図



① CR継手(更新君)のKJ・US工法 立て管寸法割出し表【1本管の場合】

階高 H	CR継手有効長 Y	US継手有効長 A	1本立て管の場合の管長 T
2960	600	110	2260

③ CR継手(更新君)のUS・両受けユニット工法 立て管寸法割出し表【MD S仕様の場合】

階高 H	CR継手有効長 Y	US・両受けユニット有効長 U	第1立て管長 T3	第2立て管長 T4
2960	600	1200	1051	1160



施工上のお願い

現場の施工誤差等に応じて、裁断長（管長T）を加減して下さい。

② CR継手(更新君)のUS・両受けユニット工法 立て管寸法割出し表【MD COS仕様の場合】

階高 H	CR継手有効長 Y	第1立て管長 T1	第2立て管長 T2
2960	600	1195	953

関連リンク



2009.2.15 KJ・US 工法の新製品 CR 継手／愛称：更新君 専有部台所流し系統の立て管更新に